2017年9月3日

福音書からのメッセージ

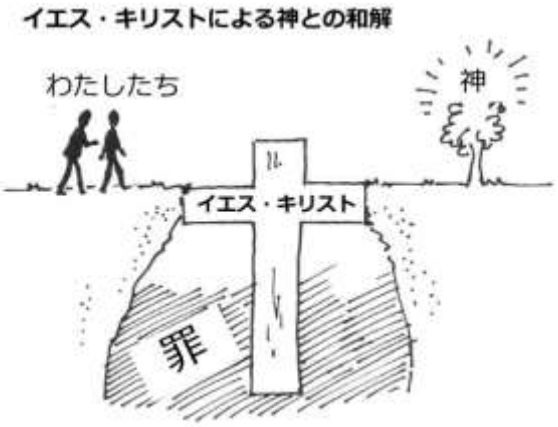
それから、弟子たちに言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。
（マタイによる福音書16章24節）

今週の聖書の中で、イエス様はご自分がエルサレムに行き、殺されること、そして三日目に復活することになっているということを告げられます。「打ち明け始められた」と書いてある通り、ことあるごとにイエス様は、弟子たちに対してそう言っていたのでしょう。イエス様は「このときから」受難について語り始められたと聖書は伝えます。では「このとき」とはどのようなときでしょうか。

先週の場面を振り返ってみましょう。先週の場面でイエス様は弟子たちに対し、「あなたがたはわたしを何者だと思うのか」と問います。ペトロはイエス様にこう答えます。「あなたはメシア、生ける神の子です」と。イエス様こそわたしの救い主であると、信仰を告白したのです。イエス様はペトロのこの言葉を喜び、ペトロという岩の上に教会を建てること、そして天の国の門の鍵をあずけることをペトロに約束しました。

そのすぐ後の出来事です。ペトロは鼻高々、意気揚々として弟子たちの先頭に立って歩いていたことでしょう。でもその中で、イエス様は弟子たちに対して何度も言うのです。自分は殺されることになっていると。

ペトロはイエス様をいさめてしまいます。「そんなことがあってはなりません」と。ペトロの心には、大好きなイエス様を失いたくないという気持ちもあったでしょう。しかしもしもイエス様が殺されたとしたら、自分はどうなってしまうのか。せっかくイエス様にいただいたお恵みが、すべて意味のないものになってしまうかもしれないのです。



ペトロの発言は、イエス様のことだけを思ってなされたものでしょうか。きっと自分のことを大切に思う気持ちもあったと思います。イエス様はそのペトロの思いを見透かされたのかもしれません。

イエス様が命じられた「自分を捨てる」ということは、とても難しいことです。しかしこの言葉には「否定する」という意味もあります。自分の思いを優先するのではなく、神さまが何をされようとしているのか、神さまのみ心は何なのか。そのことを第一に考えていくことこそ、「自分を捨てる」ことにつながるのだと思います。

イエス様はわたしたちと神さまとの架け橋になるために、十字架へと向かわれました。わたしたち一人ひとりを愛している、それが神さまのみ心でした。イエス様はその神さまの思いに従い、苦難の道を歩まれるのです。

わたしたちもまた、神さまの思いに聞き、歩んでいきたいと思います。その歩みを、神さまは喜ばれるのです。

桃山基督教会

〒612-8039
京都市伏見区御香宮門前町184
TEL/Fax　075-611-2790
メール momoyama.kyoto@nskk.org
＜教会ホームページ＞
http://momoyama.hannnari.com/